

【雑学】町田市の境界を巡る 2. (すずかけ台駅～鶴川駅まで)

12 月の中旬、前回の終点である東急田園都市線のすずかけ台駅に集合して、小田急鶴川駅まで山坂の多い約 14 km を北上するタフなウォーキングがはじまる。町田市の東部は横浜市の緑区・青葉区、川崎市の麻生区に接していて一部の境界には尾根道もある。

町田側のすずかけ台駅前は南つくし野という町名でもあり、昭和 47 年開業当初、東急は駅名を「南つくし野駅」と命名予定であったが、東京工業大学から駅名に「すずかけ」を入れてほしいとの要望があり、東急がそれを採用し「すずかけ台駅」としたそうだ。



すずかけの木は学名「プラタナス」
駅前のすずかけの木



田園都市線の陸橋を渡って旧大山街道〈大山街道は略現在の 246 号線〉に向う。すぐに小高い通称馬の背といわれる鞍部に到着する。好天であれば、ここは町田市が一望の下、さらに大山、丹沢、富士山さえ見渡せる場所である。富士の頭がわずかに見える。



昔ここは小川村（現・つくし野）で小字名は「馬瀬」「馬の背」と呼ばれていた。

それでは今回のコースを紹介する。

東急田園都市線すずかけ台駅 ⇒ つくし野駅 ⇒ なすな原遺跡 ⇒ 恩田川 ⇒ 成瀬街道 ⇒ 東雲寺 ⇒ 成瀬尾根 ⇒ 玉川学園 ⇒ 鶴見川 ⇒ ポプリホール



県境に近いつくし野4丁目の一部は深い谷戸になっており、東急つくし野駅の近道はこの階段道路だとか。15×5=75 段もあって、一般の住民が利用するのだろうか。相当にきつい階段である。この階段を上ったところから県境の境界を確認し、つくし野駅に立ち寄る。



クリスマスムードの田園都市線つくし野駅前広場とつくし野駅

つくし野駅を出、田園都市線に沿って進むと横浜線にぶつかる。南成瀬方面に行くには



横浜線と東急長津田車両基地に架かる横浜線陸橋を通らなければならない。ここ東急電鉄長津田電車区・操車場建設の際、約12,000年前の縄文期の遺蹟「微隆起線文土器（びりゅうきせんもんどき）」が発見され復元された。ここが、なすな原遺蹟と命名された。この土器は長野県須坂市の石小屋洞窟遺蹟から出土した土器と並び日本最古といわれ世界的にも評価されているそうだ。

《原嶋源衛門供養塔》



成瀬クリーンセンターに近接する小高いところに原嶋源衛門供養塔がある。

約 300 年前の享保期に成瀬東光村と長津田村の境界争いから指導的な名主原嶋源衛門が処刑された場所である。

当時の老中松平定信は将軍吉宗の意向を受け「享保の改革」を行い、穀物類の増産奨励等、そのひずみ为新田開発、境界争いに発展したものと思われ、見せしめとして処断されたものと思われる。



恩田川と成瀬街道から見た成瀬クリーンセンター



恩田川に架かる都橋を渡って対岸の成瀬街道に向う。吹上の信号から右手の山に入る。



成瀬 5-20、吹上のバス停付近

かなり急傾斜の住宅内の坂道で、ここも恩田川の河岸段丘なのだろうか見晴らしは素晴らしい。都県境の両方に住宅があり、町田・横浜と管轄が違うが、一目では判らない。隣人同士の交流及び行政サービスはどんなものであろうか？などと考えながら成瀬尾根を進み、風の広場で一休み後、急坂を下って昼食予定の東雲寺と杉山神社に向う。この時は、昼食後に又この急坂を登るとは迂闊にも考えていなかったのだ！

《東雲寺・杉山神社》 東京都町田市成瀬 4-14-1

東雲寺は曹洞宗の寺院で龍谷山成就院という。

成瀬、小川〔現町田市の成瀬・小川地区〕を知行地としていた旗本の井戸石見守弘道は、幕末動乱期に浦賀奉行の一人としてペリーから米大統領の親書を受取る重要な役目を果たした。その井戸石見守弘



東雲寺

道夫妻の墓がここ東雲寺にある。

幕府は最初、ペリーに浦賀奉行所与力〈上から三番目〉の香山栄左衛門と中島三郎助を対応させた。しかしペリーは老中クラスの高官を出すよう要求したが奉行クラスに止め、その時の対応した浦賀奉行は戸田伊豆守氏栄と井戸石見守弘道であった。



鶴見川流域には多くの「杉山神社」が存在し、町田市内では5ヶ所あるうちの 一つである。創建は不詳だが、棟札から約 350 年前の寛文 8 (1668) 年に代官福井清兵衛と地頭井戸忠兵衛勝吉により社殿創建がされたとある。昭和 57 年都市化等で恩田川沿いから、この地に



移転した新しい社殿である。またここには、現在の町田市立南第二小学校の元となった学び舎があったという石碑が建立されている。



昼食後、先ほどの県境へ坂道を登り成瀬尾根を歩くことになる。深い木立に囲まれた遊歩道は、たまには左右に住宅が見えるものの、まるで野山のハイキングに来たかと思われる静寂な雰囲気がある。尾根道の町田市側は大規模住宅地として開発された成瀬三丁目から成瀬台二、三、四丁目があり、深く切れ込んだ山下の横浜市側も宅地が押し寄せ、青葉区奈良三、四、五丁目となっている。



奈良北団地交差点から団地を望む

成瀬尾根から降りるとそこは成瀬台〈町田市〉住宅街だが、スーパー三和は横浜市青葉区奈良北にある。高層の団地は奈良北団地である。再度団地裏から境界道路に挑戦する。



奈良北と玉川学園の境界道路

玉川学園までの境界道路は、尾根道で町田側も横浜側も深い谷になっている。ここによく住宅やマンションを作ったものだと感心する場所だ。玉川学園に近づくとも尾根道も舗装された一般道となる。マンション「ワコーレ」を過ぎ信号を渡ると「学校法人玉川学園」はもう近い。学園は幼稚園から小中高大と1万名の生徒・学生が学び、町田市、横浜市、川崎市に跨りその面積は約59万㎡に及ぶ広大なキャンパスとなっている。



玉川学園高等部の校舎



高等部を過ぎ大学の農学部に入る手前に道路に埋められた3市境界の標識〈右の写真〉が学内にある。約180°が町田市で120°が横浜市、60°が川崎市で学園の面積比を表しているようだ。

農学部の入口には学園の創始者・小原国芳の揮毫による「農為国本」の石碑がある。

玉川学園は昭和4年、小原国芳により創立



され、新制玉川大学は昭和24年、農学部と文学部の2学部でスタートしたが、現在では、農学部、文学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部の8学部を有する総合大学となっている。

町田市と川崎市の境界は玉川学園に隣接する和光大学の学内を横切っている。玉川学園から和光大学内へは入れないのでウォーキングは、農学部第二校舎と農学部実験農地を過ぎたところから丘を下って歩行者や二輪程度が通れる小田急線の踏切を渡る。

踏み切りの左・玉川学園駅方向はトンネル、右の鶴川駅方面の線路は大きくカーブしているところで電車の見通しが悪い踏切である。踏切を渡った地点は和光台住宅〈金井町〉で鶴川駅もうすぐだ。



和光台住宅地の中を通り、丘を下ると町田市と川崎市の境界は、ほぼ小田急線上になる。鶴川駅まで、線路に平行している道を行くと鶴見川に至る。先には鶴川駅前の高層マンション群が目に入る。もうすぐ終点に近い。



鶴見川も河川改修されているため、線路の西側にも一部、川崎市麻生区岡上の地区がある。当然ながらこの地区の住宅に留まっている車のナンバーも町田側は多摩ナンバー、川崎側は川崎ナンバーが多いようだ。鶴川駅近辺の鶴見川旧河川は水辺公園になっており、鶴見川も、河川改修前はかなり蛇行していたことが判る。重い足取りで歩いているうちに、本日終点の「和光大学ポブリホール鶴川」と命名された市の複合施設前に15:30到着となる。本日のコースは高低差のある約14kmを歩行時間、約6時間のタフなウォーキングであった。自分も40年間、町田市に住んでいながら全コースは初めて歩いた場所である。かなり疲れはあったが、終わってみると達成感を得た日であった。引き続き鶴川駅を基点とし唐木田駅までの次回のウォーキングもしばらくは丘陵コースが続くようだ。



記：小林 尚道